

4. La flexión verbal 動詞屈折

<問題提起>

☆規則動詞、不規則動詞の活用体系をどのように教えるか？（定義、順序など）

☆どこまで（詳しく）教えるか？

☆如何に効率的に覚えさせるか？

Informaciones morfológicas de las formas verbales 動詞形式の形態的信息

☆スペイン語の動詞の語尾変化：

－数と人称の屈折、時制・叙法・アスペクト（イベントと関連する概念）の屈折

－数と人称の素性によって文法主語と一致(CONCORDANCIA)

☆動詞形式は以下のような構成素を持つ：

a) La RAÍZ (o RADICAL) 語根：語彙的な意味を持つ。

b) La VOCAL TEMÁTICA (VT) 語幹母音：屈折を区別する構成要素で、語根と共に動詞語幹を形成する。

c) TM：時制、叙法、アスペクト。

d) PN：動詞の中に主語の人称と数。

cf. 英語：語幹形成の母音(thematic vowel)：[語根＋語幹形成要素]_{語幹}＋屈折語尾

☆動詞が示す屈折要素の集合を DESINENCIA 屈折語尾という。パラダイムのいくつかの形式では、それを形成するそれぞれの要素が音声的な具現形を持つ(cant-a-ba-n);しかしながら、音声形態を欠くものものもある。

語幹

Raíz 語根	Desinencia		
	①VT(vocal temática) 語幹母音	③TM(tiempo, modo, aspecto) 時制・法・アスペクト	②PN(persona, número) 人称・数
cant-	-a-	-ba-	-n
cant-	-a-	-Ø-	-n
cant-	-a-	-Ø-	-Ø-
cant-	-Ø-	-o-	-Ø-
cant-	-Ø-	-e-	-mos

☆不定詞、現在分詞、過去分詞は TM と PN の要素を持たない（それ故伝統的な名称は動詞の非人称形）。

☆語根＋それぞれの屈折に特徴的な語幹母音(vocal temática)(-a-, -e-, -i-)+-r=不定詞

☆VT は第一活用の現在分詞、過去分詞の形成の時は交替しないが(am-a-ndo, am-a-do)、第二・第三活用の際には二重母音の-ie-と交替する(tem-ie-ndo, part-ie-ndo)。第二活用の過去分詞は語幹母音の-i-において第三活

用と同化する。

☆動詞形式＝単一形 or 複合形(FORMAS COMPUESTAS)。

- －助動詞 haber は、動詞のすべての人称で TM と PN の文法的情報の他に、回顧的な意味を持つ(el valor retrospectivo)。
- －過去分詞の語彙的な基体が、動詞の valencia (結合価) または項構造を決定する。
- －動詞形式は閉じられた一連のパラダイム。これは MODOS (叙法) の下にグループ分けされる。Modo indicativo 直説法、Modo subjuntivo 接続法、Modo imperativo 命令法

Distribución de los segmentos flexivos 屈折要素の分布

①LA VOCAL TEMÁTICA (VT) 語幹母音

☆語幹母音は、屈折語尾の最初の要素で意味は持たない。

☆語幹は、語根と共に形成される要素。動詞が属する活用、そして TM と PN の値(valores)によって三つの語幹が区別される。

- a) El TEMA de PRESENTE: 現在形の語幹：el presente de indicativo 直説法現在、el presente de subjuntivo 接続法現在、el imperativo 命令法
- b) El TEMA de PRETÉRITO: 過去形の語幹：pretérito perfecto simple 単純完了過去 (=点過去), los imperfectos 不(未)完了過去 (=線過去), el futuro de subjuntivo 接続法未来、過去分詞、現在分詞
- c) El TEMA de FUTURO: 未来の語幹：futuro de indicativo 直説法未来、el condicional 条件法、el infinitivo 不定詞

Variaciones de la vocal temática: 語幹母音のヴァリエーション

	-ar	-er	-ir
PRESENTE	ám-{-Ø- / -a-}	tém- {-Ø- / e-}	
		párt-	
	am-á	tem-é-	part-í-
PRETERITO	am-{- Ø- / -á-}	tem- {- Ø- / -í- / -ié-}	
		part-	
FUTURO	am-{-a- / -á-}	tem-{-e- / -é-}	part-{-i- / -í-}

cf. 『中級スペイン文法』(1995:296) テーマ母音：動詞の活用パターンの種別を表す母音で、ar, er, ir 動詞の区分を示す。ただし、er, ir 動詞は多くの法・時制で共通の母音を持つ。

現在形の語幹母音-a-のヴァリエーション

語根	語幹母音	TM	PN
am	Ø	o	Ø
am	a	Ø	s
am	a	Ø	Ø
am	a	Ø	mos
am	á	Ø	is

am	a	Ø	n
----	---	---	---

p.34

② PERSONA y NÚMERO (PN) 人称・数

- a) PN は一人称複数、三人称複数では規則的： -mos, -n
- b) PN は一人称単数、三人称単数ではゼロ：Ø。よって、不完了過去 (yo amaba ~ él amaba)、条件法 (yo partiría ~ él partiría)、接続法現在 (yo tema ~ ella tema)では両者の形態は同じになる。

cf. 『中級スペイン文法』(1995:297) 人称・数の形態素=PN

一人称単数	Ø	二人称単数	s	三人称単数	Ø
一人称複数	mos	二人称複数	is	三人称複数	n

c) 二人称の PN はその待遇によって tuteo, voseo, usted などになるのでヴァリエーションが豊富になる。

Segunda persona del singular 二人称単数		
con tuteo	Ø	pretérito perfecto simple 点過去, imperativo、命令
	-s	resto de tiempos それ以外の時制
con voseo	Ø	imperativo 命令
	-s	resto de tiempos それ以外の時制
Segunda persona del plural 二人称複数		
con ustedes	-n	todos los tiempos すべての時制
con vosotros	-d	imperativo 命令
	-is	resto de tiempos それ以外の時制

-s を二人称不定過去（点過去）に用いるのは正しくない(cantastes, temistes)。

③ TIEMPO Y MODO (TM) 時制と法

Tema de presente 現在形の語幹

直説法現在では TM はゼロ（ただし一人称単数では-o）。命令形でもゼロ（ただし usted/ustedes 以外）。接続法現在では第一活用は-e-または-é-、第二、第三活用では-a-または-á-となる。

Tema de pretérito 過去形の語幹

不完了過去(el imperfecto de indicativo)の TM は、第一活用で-ba-、それ以外で-a-となる。不定過去(el pretérito perfecto)では様々。接続法過去(-ra-, -se-)、接続法未来(-re-)では三つの活用形すべて同じ TM である。過去形の VT, TM, PN に相当するパラダイムは、かなり規則的になっている。

p.36 **Tema de futuro 未来形の語幹**

三つの活用形とも、直説法未来の TM は-re-, -ra- (tónicos), 条件法（過去未来形）では-ría-である。

p.37

La conjugación regular 規則活用

☆スペイン語では、伝統的に語幹母音によって三つの活用形が区別される (-ar 第一、-er 第二、-ir 第三活用)。第二、第三活用のパラダイムは TM に関しては実質的に同じである。違いは直接用現在の一人称、二人称複数(tememos/partimos; teméis/partís)、命令形複数の vosotros (temed/partid)、不定詞(temer/partir)、未来形(temeré/partiré)、条件法(過去未来)(temería/partiría)などに出る。

p.38

EL VOSEO

☆定義：代名詞 vos を単数の対話者(solo interlocutor)に使う用法(VOSEO PRONOMINAL)。同様にこの代名詞の文法的素性が、動詞活用において反映される活用語尾の使用(VOSEO FLEXIVO)。これらの活用語尾の変種は歴史的に二人称複数に相当するものに由来する。voseo はアメリカの広い範囲において話されているスペイン語の単数形の特徴を構成する。

El voseo flexivo.

直接法と接続法現在形、不定過去形、命令形で特殊な動詞形態を持つ。いくつかの国では voseo の形態を未来形に用いる(amarés, amarís)。とりわけラプラタ川流域、中央アメリカ、では直説法現在形では amás, temés, partís が用いられる。ただし、コロンビアやエクアドルのある地方でも記録されている。チリ一帯では、命令形を除いて voseo 特有の活用語尾がある。例えば直説法現在形では amáis, temís, partís が、気音と共に語尾の-s が落ちる形で用いられる。カリブやアンデスのいくつかの地域では、vosotros に対応する形式と一致する変種がこの時制に用いられている(時折、気音の-s を伴って)：amáis, teméis, partís。

voseo の接続法での用法はあまり拡大していないが、アンデス山脈や中央アメリカの南部地域では-s のない二重母音の形が用いられている(améi, temái, partái)。他の地域、コスタリカなどでは-s のある短母音の形が用いられている(amés, teás, partás)。

cf. 『中級スペイン文法』(1995:598)：vos はラテン語直径の人称代名詞二人称複数形。12～14世紀は複数と同時に単数の話し相手を指す尊称の待遇表であったが、16世紀に入るところには尊称としての用法があまりにも一般化してしまったので敬意を表現しなくなり、逆に親密ではない同僚の間で使われるようになり、都会部ではその使用が避けられるようになっていった。このような状況下で vos は人称代名詞の体系に組み入れられたままアメリカに渡った。今日、アメリカの広い範囲で tú が使われているが、同時に vos も使われている。入植時代の始まったころ、雑多な出身の入植者たちが互いに呼び合うには、特に親しい相手や目下の者に対して使う tú や明確な尊称である vuestra merced では使いにくかった。大多数の入植者は互いに特に親しいというわけではなく、同僚として呼び合うのに vos が手頃であっただろう。

- voseo の地域：アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイの大部分、中央アメリカ、メキシコ（チアパス州、タバスコ州）ラプラタ地方では全社階層でこの現象がみられるが、パラグアイでは教養語としては tú が使われる。
- vos が tú と共存している地域：パナマ内陸部、コロンビア、ベネズエラ、エクアドルの大部分、チリ、ペルー南部、ボリビア、キューバ東部のごく限られた地域。チリでは学校教育によって排除する努力がなされるも、俗語として残る。
- voseo が見られない地域：スペイン、メキシコのほぼ全域、ペルーやボリビアの大部分、スペインとの交流基地だったアンティーンリャス諸島。
- 動詞活用：二人称複数形の変化した語形。中央アメリカ、ブエノスアイレスでは vos hablás, vos comés, vos vivís、チリでは vos habláis, vos comís, vos vivís など。

Los verbos irregulares 不規則活用

☆動詞活用の不規則性は三つのクラスに分けられる：

- a) **VOCÁLICAS**: 母音間の交替(pedir~pido)、または単母音と二重母音間の交替(entender~entiendo)がある。
- b) **CONSONÁNTICAS**: 何等かの子音要素が付け加えられる(padecer>padezco)、または子音の交替がある(hacer>haga)。
- c) **MIXTAS**: 母音の交替、子音の交替の両方に影響を及ぼす(decir>digo)。

☆この三つの基本クラスの他に、**RAÍCES SUPLETIVAS** (追加語根) から成る不規則形がある。つまり、二つまたはそれ以上の語根が同じ動詞に見られる(ir>iré~voy)。 **VERBOS DEFECTIVOS** (欠如動詞) もその活用のパラダイムにおいていくつかの形が欠けていることから不規則形と考えられる。

cf. 『中級スペイン文法』(1995:300)：一部の法・時制、人称・数しか用いられない動詞を**欠如動詞**という。

1) 語尾が i で始まる以下の活用形のみを持つタイプ

abolir: 直説法現在はこの二つの活用のみ。abolimos, abolís (cf. aguerrir, agredir, arrecirse, aterirse, blandir...)

2) 三人称単数・複数のみ acaecer, atañer, acontecer, concernir, antojarse, ocurrir

3) 三人称単数形のみ llover

a) **VERBOS VOCÁLICOS** 母音動詞

☆語根が母音で終わっているものを母音動詞と呼ぶ。actu-ar, aire-ar, averigu-ar など。このうち、すべての形で二重母音が出るものを verbos vocálicos de diptongo fijo o sistemático (不変二重母音の母音動詞または体系的二重母音の母音動詞)と呼び(anuncio, anuncié, anunciaré, ...)、いくつかの活用でのみ二重母音が出るものを verbos vocálicos de diptongo variable o de alternancia <diptongo-hiato>(可変二重母音の母音動詞、<母音分立二重母音>交替の母音動詞)と言う(en.via.ré, en.ví.o)。

☆不変二重母音の母音動詞：

a) -iar で終わるいくつかの動詞：acariciar, agobiar, anunciar, cambiar

b) -uar で終わる少数の動詞：menguar, aguar, averiguar

☆<母音分立二重母音>交替の母音動詞：

a) -iar で終わるいくつかの動詞：ampliar, confiar, desviar, enfriar

b) -uar で終わるいくつかの動詞：continuar, efectuar, evaluar, situar

c) -uir の動詞：construir, incluir これらは他の不規則性も示す

☆語根の最後尾ではない位置に二重母音を含む動詞も、母音動詞と同一とみなすので、不変二重母音の母音動詞 (bailar, causar)、または可変二重母音の母音動詞(aislar, aunar)と分類する。

☆diptongo creciente (弱—強) (ia, ie, io, ua, ue, uo)の動詞は全ての形式で体系的(viajar, inquietar, aguantar)。

☆diptongo decreciente (強—弱) (ai, ei, oi, au, eu, ou) は二つのパラダイムにまたがる。

<不変二重母音の母音動詞>

a) -au-を含むいくつかの動詞：aplaudir, causar

b) -ei-を含むいくつかの動詞：peinar, reinar

c) -ai-を含むいくつかの動詞：bailar

<可変二重母音のグループ>

a) -au-を含むいくつかの動詞：aullar, aunar (aúnan, aunamos)

b) -ei-を含むいくつかの動詞：descafeinar (descafeinan, descafeinamos)

c) -ai-を含むいくつかの動詞：aislar (aíslan, aislamos)

d) その他、diptongo decreciente を含む動詞：prohibir, rehusar, reunir (reúnen, reunimos)

VERBOS CON ALTERNANCIA VOCÁLICA 母音交替の動詞

☆いくつかの動詞は、二重母音と交替。二重母音の形式は、現在形の語幹のアクセントのある語根において選択され、もう一つの形式（単母音）は無強勢の場合に選ばれる。

Átona	Tónica	Ejemplos
/e/	/ié/	acertamos ~ aciérto; entenderemos ~ entiéndo
/i/	/ié/	adquirimos ~ adquiriéro
/o/	/ué/	contában ~ cuénto
/u/	/ué/	jugámos ~ fuégo

☆また、閉母音によって母音の不規則性がでる例：pedir (pedimos ~ pido)

VERBOS CON IRREGULARIDADES CONSONÁNTICAS 子音不規則形の動詞

☆子音の交替は、その追加(EPÉNTESIS 語中音添加)または削除(SÍNCOPA 語中音消失)と関係している。

p.41

☆語中音添加が直説法現在一人称単数と、接続法現在のすべての形式で見られる例。

a) /k/: -ecer, -ducir, -lucir で終わるもの (agradezco, conduzco, luzcamos)

b) /g/: 語根が-l で終わるもの(salgo)、-n で終わるもの(pongamos)

c) /ig/: caer, traer, raer, roer

☆語中音消失：未来形の VT (語幹母音) の削除の例：(caber > cabré, poder > podré)。この語中音消失の結果がnr, lrになった場合は、さらに語中音添加が起こる(poner > *ponré, pondré, tener > *tenré, tendré, salir > *salré, saldré)。

PRETÉRITOS FUERTES Y PARTICIPIOS IRREGULARES 強過去形と不規則な過去分詞

☆いくつかの動詞は不定過去（点過去）で混合の不規則性を示す（強過去形(PRETERITOS FUERTES)）。一人称、三人称単数で、語尾(desinencia)ではなく(amé, temió, partí)、語根にアクセントが来る(quise, dije, traje)。

多くの強過去形では、アクセントを受ける語根の母音が交替する(venir > vino, haber > hubo)。

☆強過去分詞は語根にアクセントを受ける(abierto, cubierto, dicho)。

☆異なる解釈と用法で強過去分詞には規則形も存在する。

electo 選出された 当選した	frito 油で揚げた、 炒めた	impreso 印刷され た	preso 捕らわれた	provisto 備えた
elegido 選ばれた、 選出された	freido 挙げた、炒め た	imprimido 印刷さ れた	prendido 引っ掛か った、からみついた	proveído

VERBOS DE CONJUGACION ESPECIAL 特別な活用の動詞

El verbo *haber* y otros verbos

☆動詞 *haber* は複合時制の助動詞、かつ無人称文における、三人称単数のみに活用する動詞としても用いられる(Hay gente; habrá, fiestas)。

p.42

☆voseo ではない命令法単数形で、decir, hacer, tener, poner, salir, venir はそれぞれ di, haz, ten, pon, sal, ven となる。これらの変異形はその派生形でも保たれるが、decir のいくつかの派生形の命令形では-dice という語尾が用いられる(bendice, contradice, desdice, predice)。

☆estar は全ての活用でアクセントのない語根を示す(ただし、強過去形の estuve, estuvo 以外)。代名動詞の estarse の命令形は、estate, estense, estaos となる：Estate quieto。

☆dar は第一活用に属するが、完了形の語幹は第二・第三に特有な語尾で活用する(dio, dieron; diera, diese, diere)。

Raíces supletivas. 追加的語根

☆ser と ir はその活用において異なる語彙的な土台(base léxica 語基：接辞を取り除いた部分)を示す。

cf. ser: s- soy, sos, somos, sois, son
 es- o e- es
 er- eres, éramos
 fu- fuimos, fuera, ...
 se- será, sería, sea, ...

VERBOS DEFECTIVOS 欠如動詞

☆不完全な活用を示す動詞、つまり、活用形のいくつかが欠けているパラダイムを持つ動詞。この不完全さは異なる要因による。

a) 自然現象に言及する動詞(amanecer, anochecer, llover, nevar)は三人称単数形で活用する。ただしこのうちいくつかは、非人称ではない意味も持っている(Le llueven ofertas de trabajo; ¿Cómo amaneciste hoy?)。

b) 三人称単数のみに活用する動詞(acaecer, acontecer, atañer, concernir, ocurrir, urgir)は人間についてのべるのではなく、出来事について述べる(Ocurrió una catástrofe)か、または命題的内容について述べる(Urgía que se tomara una decisión)。

c) acostumar (うち一つの意味) と soler は不完了の意味で用いられる。それ故、限られた時制でのみ用い

られる。acostumbrar は直説法現在(acostumbro)、接続法現在(acostumbre)、直説法未完了過去(acostumbraba)、複合完了時制(he acostumbrado)。(cf. soler は直説法現在、線過去でのみ活用する。)

参考：動詞時制の名称

	『中級スペイン文法』(1995: 301)	『スペイン語文法ハンドブック』
amé	点過去 (不定過去、完了過去、単純完了過去)	点過去形
amaba	線過去 (不完了過去、継続過去)	線過去形
amaré	未来 (不完了未来)	現在推量形
amaría	過去未来 (遡及未来、可能単純形、可能法単純形)	過去推量形
he amado	現在完了 (完了過去、複合完了過去)	現在完了形
hube amado	直前過去完了 (直前過去)	点過去完了形
había amado	過去完了 (大過去)	過去完了形
habré amado	未来完了 (完了未来)	現在完了推量形
habría amado	過去未来完了 (遡及未来完了、可能複合形、可能法複合形)	過去完了推量形
接続法		
ame	現在	現在形
amara/amase	過去 (不完了過去)	過去形
amare	未来 (不完了未来)	
haya amado	現在完了 (完了過去)	現在完了形
hubiera/hubiese amado	過去完了 (大過去)	過去完了形
hubiere amado	未来完了 (完了未来)	

<実施報告 2015.7.4.>

今回の TADESCA では動詞の内部構成と、屈折体系、規則・不規則活用について概観した。普段授業で教えていく際には語根または語幹対語尾という区別で説明することが多い。規則・不規則活用という名称も、この語幹対語尾の対立で説明することができる。しかしながら実際には、これらの用語についてあいまいに用いていたところもあり、もう少し細かく動詞内部を分類していくことで、それぞれがどのようなパターンで現れるかが理解できたと思う。用語の確認、母音の交替とアクセントの交替が関係づけられること、子音の語中音消失、語中音添加のパターンなども確認でき、自分自身の勉強としても大変参考になった。また、欠如動詞に関しても参加者の皆さんからの意見で理解が深まった。今回の発表で得られたことを今後の授業にフィードバックできるようにしていきたいと思う。